平成２９年度　政務活動費　先進都市調査報告書

会派名	市政協同
議員名	我妻静夫・古澤孝市・徳中嗣史・岡田健一・早川昇三・南川達彦・鈴木和彦 黒光ひさ
調査実施年月日	平成29年11月14日
調査先　自治体名等	鳥取県境港市
調査項目	いのちとこころのプロジェクトについて
調査目的	思春期を対象とした自死予防施策
報告内容 実施したこと	1　視察先（市町村）の概要 人口：34，547人　行政面積：29．10㎢ 2　視察内容 境港市では、思春期を対象とした自死予防施策「いのちとこころのプロジェクト」について調査を行った。 国が平成21年に自死者3万人が減少しないので、自殺対策緊急強化事業に補助金を出すという事をきっかけに調査した結果、一年間に平均10名程度が自死で死亡している事、自死の5年ごとの集計で減ってこない事、65歳未満の死亡原因が2位が自死だという事から、平成24年からいのちとこころのプロジェクト事業を教育委員会と福祉・保険部門が共同で、スタートする。 若い世代の自死につながる、うつ病も増えていたので、心の病気に関する相談を受ける中で、引きこもり、働けない、社会に出れない、人付き合いが苦手といった相談が多く、子ども時代のいじめや親との関係などが発端という事が分かってきて、成育歴や体験談を聞き取ることになった。子どものころの気持ちや経験が大人になってからの生きづらさに影響しているかもという事が判明してきた。 何か対策をと検討して、「思春期からの取組」となり、生きづらさのある子ども（大人）を減らそうと、事業を立ち上げ、市内小学6年生を対象に「こころとからだの健康アンケート」を実施し、思春期の子供のこころやからだの状況に関する実態を把握し、今後の予防活動に反映しようとする。 アンケートからわかったことは、子どもが自分の想いを表出できることが大切、また、子どもの話を聞いてくれる人、相談にのってくれる人、ほめてくれる人がいてくれることが大切だということ。また、アンケートを書くことによって、自分自身や家族の事を振り返りにつながり、気づきにもなった。そして、学校、教員、保護者などと情報を共有し卒業後の支援につなげたい。 今後は地域への普及啓発に努め、理解者を増やすため、「こころの応援団を広げる会」を平成27年から立ち上げ、子どもの居場所が必要なので、「子ども食堂」を作りたいと考えている。
感想（まとめ） 本市へ生かせること 等	境港市では小学6年生の他に中学生にもアンケートをしようとしたが、断念したということであったが、幅広くアンケートを行い、多世代でいのちの大切さを考えることは重要であると考える。境港市の施策のように子どもたちの心の実態を

	探り、子どもたちの実態に合わせて心を支える仕組みが本市にも必要だと感じた。また、子どもの心を支えるためには、子どもがいる場所へ大人が出向く仕組みがあればより施策が充実すると感じた。